













第17回国場川こいのし

イベント日: 5月12日(日)午

午後4時  
午後12時~





























































































































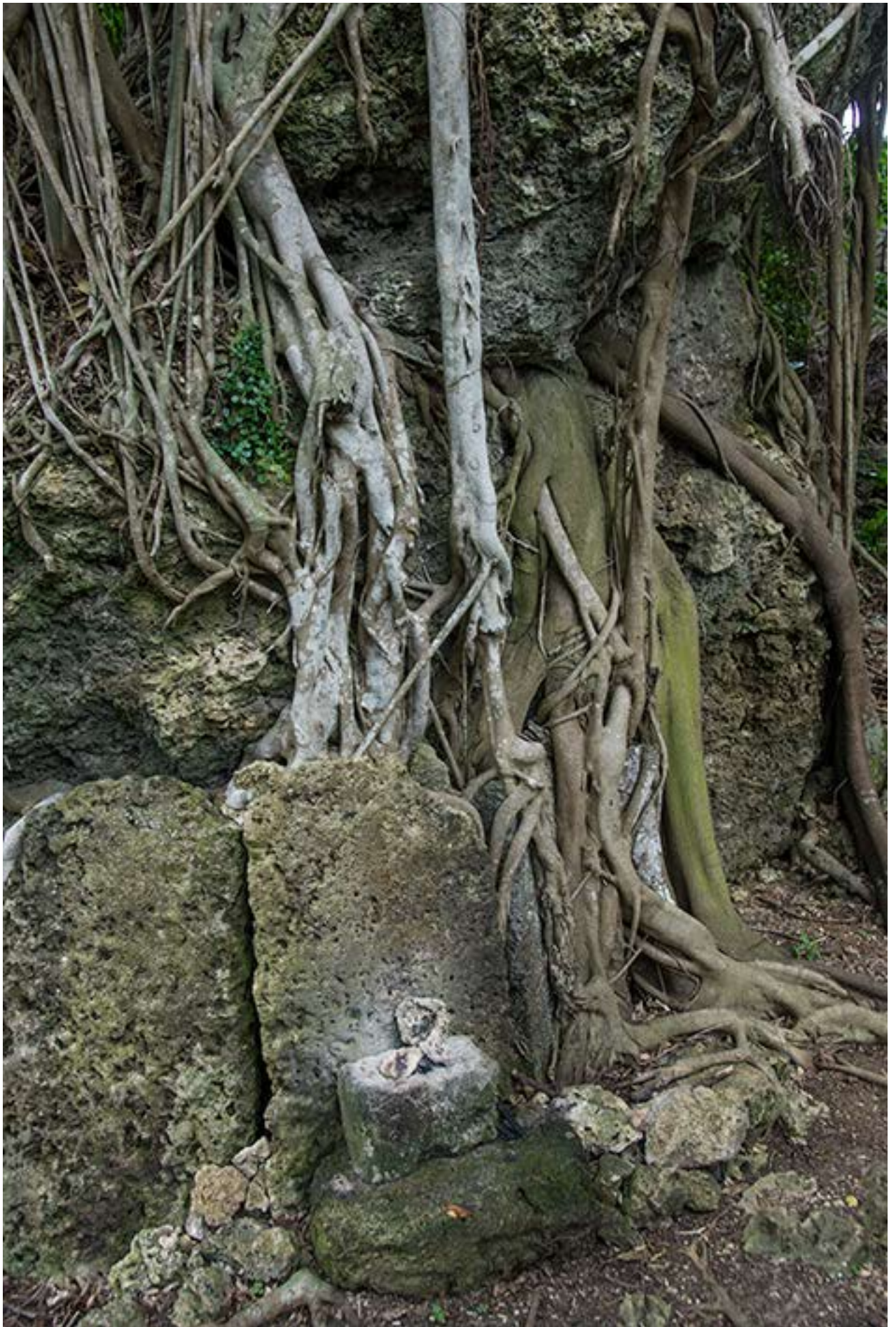






















記念植樹誌

奥武観音堂の由来

十七、十八世紀の頃、一般の唐船が嵐に遭い奥武島に漂着した。乗組員達は、見知らぬこの島に上陸をためらっていたところ、島の山の上に白衣の美女が現れて、「案ずることはない」と言わんばかりに手招きをしたので、「これは天の助け」と喜んで上陸した。すると島民達が集まってきて、着物を与え、焚き火で冷えた体を温めたり、お粥を炊いて手厚く介抱した。乗組員達は島民の心からの支援に深く感謝し、島民の支援を得て船を小港（クナナト）の岩に繋いだ。（この岩を「ミシラギ」といい、旧暦の五月四日に行われるハリー（祝能船競漕）の時は、最初に観音堂に一年間の航海安全と豊漁、島民の健康と融和、島の繁栄を祈願し、次にミシラギ坪所に同様な祈願を行い、御願パリーを始めます。）

船の修理を終えた乗組員達は故郷へ帰ることになり、以前白衣の美女が現れた山に入って「我等一行これより帰国せんと思ふ。願わくば吾等に幸運を与えたまえ、無事帰国できるよう神様は我々をお守り下さい。願望が叶ったならば、仏様をこの地に祀って浄土としよう」と祈願、無事帰郷することができた。

その後、乗組員から琉球王朝を通して、奥武島に黄金の観音像一尊と仏具一式を贈ってきた。しかし琉球王朝では、はじめ同名の他の奥武に安置したが越やかならず、八方手を尽くした結果、玉城閨切の奥武島がその地であることがわかり、閨切役場を通じて奥武島に観音像が届けられたので、一字の堂を建立して観音像を安置することになった。旧藩時代は王府が供え物一式を司り、その代行を奥武村出身の大城南、掟が行っていた。その後、閨切持ちとなり、後に奥武の村持ちとなったため、今は奥武の旧家大塚が行っている。

ここに鎮座される観音像は、代々島民の深い信仰を集めて現在に至っているが、この堂は昔三回（観音堂三興之記）にわたり改築されている。観音堂に関する記録は残念ながら残っていない。観音像は今次大戦まで無事安置されていたが、現在は陶製の観音像を安置している。又この堂も昭和四十年九月の観音堂三百五十年祭にちなみ、那覇市の渡辺健次氏が改築寄贈され、老朽化した島民も昭和六十年観音堂三百七十年祭の際、当区出身の安次富剛氏が改築寄贈された。

境内の石灯籠には嘉慶十七年秋分吉日福井觀雲上、与那覇萬登之觀雲上、比嘉筑之の名前があり、同吉日に比嘉仁屋、当山仁屋、城間仁屋、同じく吉日に玉城観方盛林、嘉慶二十五年には玉城俊司から寄進されたのが現在も残っている。

- 「普濟」（ふさい）：広く仏のみちによって人民を救う。
- 「南海蓮花洞部洲」：南海に蓮の花が満ちあふれている島。
- 「徳本慈悲教哲化」：孝徳の根本は仏の慈しみ、哀れみを皆に教え導き人を善に移らせる。

平成十九年十二月吉日作製

南城市玉城字奥武区











## 凡 例

①	奥武観音堂
②	殿
③	観音井戸
④	産井戸(東り川)
⑤	奥武名護川(夫婦井戸)(ウヌツア)卵
⑥	ヒータチー(灯台)
⑦	浜ガーラ(ニヌツア)子
⑧	西井戸(ニイツガ)
⑨	称び川(トイヌツア)酉
⑩	ミシラギ
⑪	上原井戸(ウマヌツア)午
⑫	慰 靈 塔
⑬	竜 宮 神
⑭	東ウグァン(東之嶽)
⑮	西ウグァン(西之嶽)
⑯	国 軸
⑰	中之嶽

# 奥武島拝所案内図

































 550円	 生姜焼き定食 650円	 魚バター焼き 700円	 今日の定食 600円
 600円	 刺身定食 650円	 魚からあげ 700円	 幕の内 600円
 550円	 とんかつ定食 650円	 魚につけ 700円	 魚汁 700円

発泡酒  
200,300



































